

“安全”と“衛生”の効果を 向上させるための“しくみ”をつくる

ISO45001労働安全衛生マネジメントシステムの活用

日本能率協会 審査登録センター



JMAQAは“経営革新をともに考える”
あなたのパートナーです

一般社団法人日本能率協会審査登録センター（JMAQA）は1994年、特定の業種・業界に依らないマネジメント系第三者認証機関として設立し、以来、一貫して組織の「経営革新」を推進して参りました。

「経営革新」は、“環境の変化や自発的意思により、製品／サービス、組織、システム、風土、活動方法等を、新たな発想と方法によって改革し、品質、生産性、個人能力、働きがいを飛躍的に向上させること”と考えます。その実現は、利害のない客観的な立場からの認証によって確実になるものと確信し、社会財と言える認証活動を推進しています。

JMAQAは、組織と組織を取り巻く環境を的確に把握し、顧客をはじめとする利害関係者の期待とニーズを理解し、さらにすべてのリスクと機会を適切に評価した審査を実践し、皆様と“ともに”「経営革新」を考え、企業価値向上を実現します。

労働安全衛生マネジメントシステム (OHSMS)の特徴

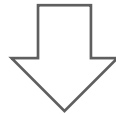
3つの大きな特徴があります。

- ① 規格の構成は、EMSと酷似しています
- ② 働く人の協議と参加を求めています
- ③ 最重要プロセスは、現場のリスクアセスメントです

- ・業務の危険性は現場に聞く。
 - ・その管理策は現場とともに考える。
 - ・継続的改善のしくみは管理者側が責任をもつ
- これらで「働く人」を守る管理システムです。

労働安全衛生マネジメントシステム (OHSMS)の目的 ~『序文』より~

- OH&Sリスク及び機会を管理するための**枠組み**を提供すること



- **安全で健康的な職場**の提供すること
- **負傷・疾病**を防止すること

- 成功のための要因
 - **リーダーシップ**とコミットメント
 - 組織の**全ての階層**及び部門からの参加

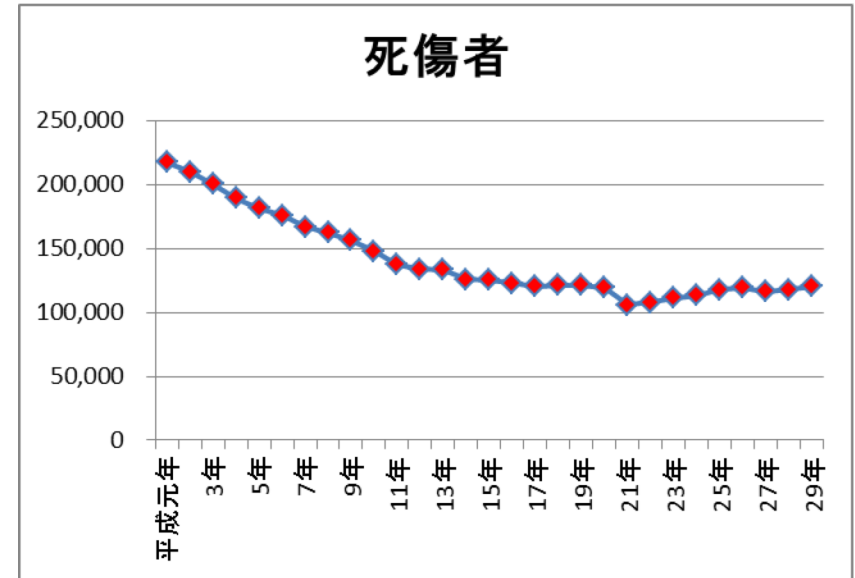
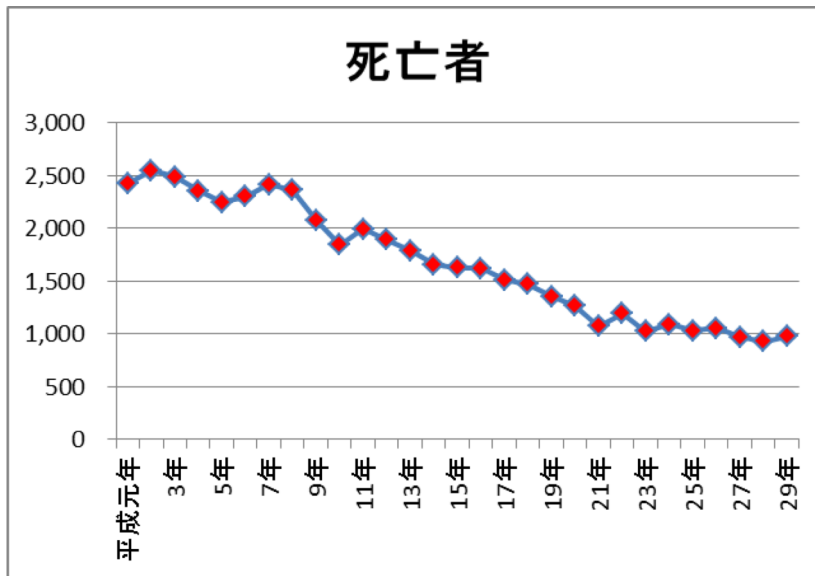
OHSMSを導入することで得られる効果

- 労働災害に対して、現場や該当部門だけでなく、タテの関係、ヨコの関係を通じた**全社的な取組み**（経営者から協力会社、部門間の**水平展開**）ができるようになります。
- 事前のリスクアセスメントを重視し、**継続的改善をし**
くみに落とし込むことで、重大事故の低減が可能となります。
- オフィスでの衛生面、メンタルヘルス、ハラスメントの**パフォーマンス向上**も可能となります。

国内におけるOHSMSの取組み

- 平成11年(1999年)11月
建設業を対象としたガイドライン 基安発第35号
- 平成12年(2000年)9月
OSHMS普及推進事業について 基発第577号
- 平成14年(2002年)7月
陸運業におけるOSHMSガイドライン 基安発第0704001号
- 平成18年(2006年)3月
OSHMSに関する指針 厚生労働省告示第113号
- 平成30年(2018年)9月
JIS発行予定

労働災害の発生状況の推移



厚生労働省「労災給付データ（全産業）」より日本能率協会にて作成

平成26年以降の死傷者は、労働者死傷病報告書による

死亡者数は確実に減少しているものの、死傷者数は停滞気味？

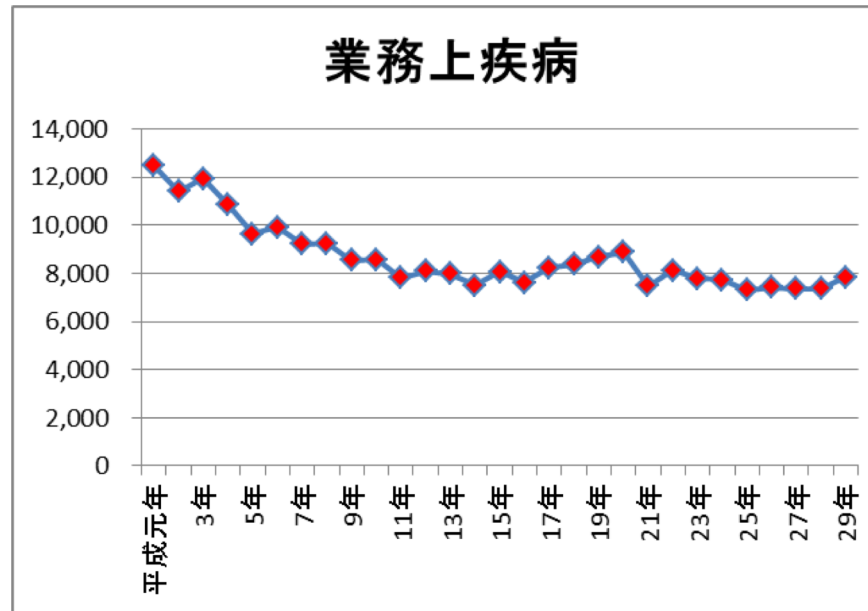
これをどう考えますか？

労働衛生の状況

- メンタルヘルス（ハラスメント、ストレスチェック）
- 過重労働対策（労働時間、残業時間）
- 腰痛対策
- 熱中症対策
- 受動喫煙防止対策
- 化学物質対策

など

業務上疾病の推移



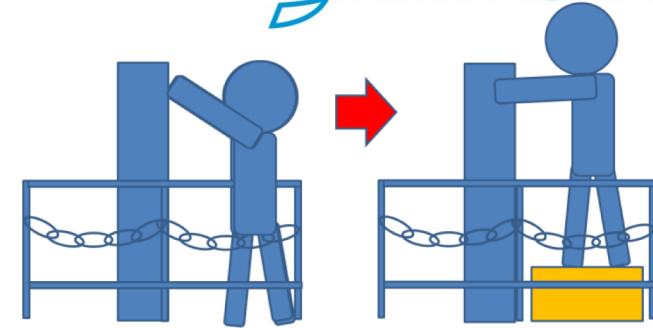
厚生労働省「業務上疾病発生状況調査」に基づき日本能率協会にて作成

平成11年以降、増減を繰り返し、
件数の減少は認められず…

労働人口が減っていることを考えると、発生率は？

審査の視点

- リスクアセスメントの適切性を視る
- 製造部 第1係でのリスク評価の計算式
- $(A\text{ケガの可能性} + B\text{作業頻度}) \times C\text{ケガの程度} = \text{リスク評価点}$
- ケガの可能性 作業頻度 ケガの程度(重篤度)



1	2	3	4	5
低				
		中		高

- 特定されたリスク
 弁の設置が高い位置にあり、踏み台に上がり作業をすることになるが、足を踏み外した場合、上半身が柵より高い位置になるため、落下する危険性がある。
 - ・リスク見積り: $(3 + 5) \times 5 = 40$ 、リスク評価: III
 - ・リスク低減対策: 手すりの上昇及びチェーン柵から固定柵に変更
 - ・管理策実施後の評価: $(1 + 5) \times 1 = 6$ 、リスク評価: I

指摘と原因

- リスク対策として“ケガの可能性”を減らす取り組みはとっていたものの、**ケガの程度**を減らす対策になっていない。
- 対策後のリスク評価では、**ケガの程度**も低くなって評価していた。組織の手順では、上記3つの視点でリスクへの対策を検討することを手順としているが、第1系の認識が不足しており、不十分なリスクアセスメントになっていた。（製造部 第1係）

“安全”と“衛生”を効果を上げるためのしくみ”をつくる

- 成功のための鍵は、
 - リスクアセスメントを軽んじないこと
 - 4Mの変更時には、事前段階で必ず評価すること
 - その場所・その作業を担当する部門を明確にすること
 - 現場との一体感を持たせること
 - 安全の対象は、請負や派遣を含め関係する全員と認識すること
 - トップダウン型とボトムアップ型の相乗効果を目指すこと
 - PDCAを回し、継続的に改善させること
 - PDCAのしくみを管理するISO45001の導入が有効

その他、認証審査時の注意事項

● 認証機関が審査時に要求されている事項

1. 一時的サイトに対する審査
2. 作業を終えた(閉鎖された)現場でも保守、監視活動が必要な場合あり
3. 労働安全衛生に責任をもつ従業員代表者との面談(例:労働組合代表者など)
4. 従業員の健康を監視・責任をもつ方への面談(例:医師、看護師など)
5. 最終会議に出席が求められる要員(経営層に加え、上記3、4)

● 審査外で求められること

1. 労災事故や労働事件発生時の報告義務



まとめ

- 労働安全衛生で重要なことは、「**リスクアセスメント**」と「**協議と参加**」
- 安全と衛生は、ISO45001の「**しくみを整える**」ことで「**継続的な改善**」と「**パフォーマンス効果**」が見込める。
- 日本能率協会は、実践と経験に基づき「**安全面だけでなく衛生面にも**」力を入れた審査をする。

お問い合わせ先

一般社団法人日本能率協会 審査登録センター
(J M A Q A)

担当：CS・マーケティング部

T E L 03-3434-1446

F A X 03-3434-2086

E-mail JMAQAinfo@jma.or.jp

U R L <https://jmaqa.jma.or.jp/>